

2022 年度(令和 4 年度) 三重県立高校後期選抜 分析と評価

eisu 教科分析チームの責任で作成された、各教科及び五教科全体に対する分析と評価です。入試問題の研究・学習の参考資料になるよう作成されました。叙述の客観性を保証するものではありませんので、ご理解ください。(2022 年 3 月 9 日作成)

国語	難易度
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 例年並 ■ 大問の難易度 [1]例年並 [2]例年並 [3]例年並 [4]例年並 [5]やや難
	eisu 国語科チームによる分析と評価
	<p>大問[5]の作文では、一昨年からの資料の読み取りと共に出題されるパターンが継続しており、この形式が定着したと見てよい。昨年同様、グラフなどの資料の数値を細かく検討する必要があったため、やや難しかったはず。また大問[3]説明的文章の中に、新大学入試の傾向を意識したような複数人物の対話を題材にした出題があり、話の流れを適切に読み取る必要があった。大問[4]古典は、古文の中に漢文の知識を問う問題を含むもので、こちらでもこの形式が定着した感がある。</p>

数学	難易度
	<ul style="list-style-type: none"> ■ やや難 ■ 大問の難易度 [1]例年並 [2]例年並 [3]例年並 [4]やや難 [5]例年並
	eisu 数学科チームによる分析と評価
	<p>全体を通して、傾向や問題数は例年通りであったが、教科書が改訂されたことによる「累積相対度数」や「箱ひげ図」など新課程の内容が出題された。考えさせる問題が昨年までより多く出題され、解きづらいと感じた生徒も多かったと思われる。基本的な問題から高度な思考力を問う問題まで幅広く出題され、しっかりと時間をかけなければならない問題もあり、今まで以上に時間配分に気をつける必要があった。過去の入試問題に慣れることに加え、新課程の内容にも積極的に取り組むなど、しっかり対策を重ねておくことが大切だ。</p>

社会	難易度
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 例年並 ■ 大問の難易度 [1]やや難 [2]やや易 [3]やや易 [4]やや易 [5]例年並
	eisu 社会科チームによる分析と評価
	<p>例年通り、思考力・判断力が重要であり、多面的な事象の把握が問われる問題が出題された。記述式問題が昨年度の 7 問から 9 問に増加した。近年の傾向と同じく、複数の資料を読み取り、文章をまとめる力が必要であった。また大問全体としては「やや易」「例年並」と評価したのも、過去の類題研究を十分こなしていることが前提であり、部分を検討すると細かい知識や複数の資料の読み込みを必要とする難問が混じっていて、油断はできない。</p>

難易度

- やや易
- 大問の難易度 [1]例年並 [2]例年並 [3]やや易 [4]やや易

英語

eisu 英語科チームによる分析と評価

今年度は昨年度と比べて、全体的に難易度が下がっている。昨年度と同様、対話文や長文における選択問題では、各選択肢の情報量が多く、短時間で正確に本文と照らし合わせながら、解答を導く判断力が問われた。また携帯電話でのメッセージのやり取りについての内容を問う、新たな傾向の問題が出題されている。他府県と比べて、リスニングの配点が極めて高く、50 点中 18 点を占めるという得点配分は変わらない。

難易度

- やや難
 - 大問の難易度
- [1]例年並 [2]やや易 [3]例年並 [4]やや難 [5]例年並 [6]難 [7]例年並 [8]やや難

理科

eisu 理科科チームによる分析と評価

全体的に文章量が多く、実験・観察をもとにした問題が多数出題された。学んだ知識をもとにして、問題の条件に注意しながら解答する必要があり、負担が大きい。なかには仮説思考力をためす問題もあった。新単元からも出題されており、難しく感じた生徒が多かったはず。処理能力の高さも求められ、受験生は制限時間内で解くのに苦戦したのではないか。

eisu 教科部チームによる分析と評価

全体

多種多様で膨大な情報量を持つ資料、特に文章を速く読み解く読解力が重視されており、この点は現行の大学入学共通テストと同趣向である。問題のレベルは基本的で比較的易しいものから、相当な難問まで振り幅が大きく、難関校狙いで失点ができない人にとっては、攻略は決して容易ではない。難問に確実に答えられる高い学力の養成が必須である。

注意：このデータを紙などに印刷したり、それを配布したりする行為はご遠慮ください。